

目標達成計画

作成日：平成26年 9月 4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	56	利用者の表面上の言動しか見ることができておらず、その言動の真意や言葉にならない思いを感じることができていない。又、言葉では表現できない希望や要望等の気持ちを理解することの重要性が理解できていない。	●不穏状態の対応に追われるのではなく、何故不安感が強くなるのか・何に対して焦っているのか・腹を立てている理由は何かなどについて深く考える習慣をつける。 ●抽象的な内容がイメージできなくなっているという病状を理解し、言葉の表現による説明を求めるのではなく、表情や仕草等の言葉以外のサインを感じとれるようになる。 ●日常の行動のパターンや些細な発言から、希望や要望等の隠れた思いを想像し可能な限り実践できるようになる。又、その際の利用者の変化を感じとれるようになる。	●不穏状態の対応時には、センタリング(バリデーション法)を行い、共感的な姿勢で接する。 ●「何でそんなことを言うの?」「どうしてそんなことをするの?」等の抽象的な質問ではなく、気持ちを察しながら「○○だから○○なの?」等の具体的な問いかけを行う。 ●表情(微表情を含む)や仕草から言動の真意を探る。 ●日常生活の中の“大切な瞬間”を感じとれるように感受性を磨く。	12ヶ月
2	6	利用者の動きが見られるようになると、「ちょっと待って!」というその場しのぎの指示的な制止の言葉かけを意味なく繰り返す場面が多く、さらに慌ただしい雰囲気になってしまう。	●指示的な言葉や制止する言葉を使用せずに、声かけができるようになる。 ●利用者が不快にならないような言葉の選択や使い方ができるようになる。	●指示的ではない言葉(例:「ちょっと待てますか?」「どこに行きたいのか聞かせてもらえますか?」等)を使用し、行動を止めるかどうかは利用者に決定してもらおうようにする。 ●いろいろな表現の仕方や言い回しについて学習する。(接遇マナー)	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。